

## 自転車を活用したまちづくりへの取り組み\* (鯖江商工会議所建設業部会との協働事例)

吉村 朋矩\*<sup>1</sup>

### The Initiatives through Bicycle Utilization Promotion Community (Case of Collaboration to Chamber of Commerce in Sabae)

Tomonori YOSHIMURA\*<sup>1</sup>

\*<sup>1</sup> Faculty of Engineering, Department of Architecture and Civil Engineering

This paper reports on the "SabaPota de SabaRepo" project implemented in FY2021 in collaboration with the Construction Industry Division of the Sabae Chamber of Commerce and Industry and the Yoshimura Laboratory of FUT. The "SabaPota de SabaRepo" has created an opportunity to use bicycles in Fukui Prefecture, which is usually traveled by car, and we believe it is effective as a means to increase interest in MACHIZUKURI using bicycles. We hope that these opportunities will lead to the promotion of initiatives that can be connected to improve the local bicycle use environment and to an increase in the number of local leaders in the community. We would like to continue to the initiatives through Bicycle Utilization Promotion Community in the future.

**Key Words** : Cyclists-Friendly City, Regional Alliances, Social Design

#### 1. はじめに

人口減少社会のなかで、2017年には「SDGsアクションプラン2018」を国が示している<sup>(1)</sup>。そのなかで、日本の「SDGsモデル」を特色づける三つの大きな柱の一つとして「SDGsを原動力にした地方創生、強靱で環境に優しい魅力的なまちづくり」が挙げられている。また、2017年度より観光庁によって「特定の観光資源を活用して地方誘客を図る」ことを目的とした「テーマ別観光による地方誘客事業」が開始されている<sup>(2)</sup>。

自転車を活用したまちづくりの観点からは、2014年に国土交通省によって示された国土のグランドデザイン2050<sup>(3)</sup>のなかで、①交通政策基本法に基づき複数のモード・事業者の連携によるサービスの向上など交通に関する施策を総合的かつ計画的に推進する、②交通需要の偏在や、歩行者・自転車乗車中の事故が多いといった課題を効率的に克服するため、必要なネットワークの整備とあわせ今ある道路を賢く使う取り組みを推進する、③公共交通や自転車の利用を含め交通手段の多様性や安全な歩行空間を確保することにより都市部の良好な環境を創出する、加えて自転車の利用実態に合わせて、駐車場附置義務を緩和し駐輪場に転換等を行うことも推進するといったことが挙げられている。最近では、今後の自転車計画の在り方や自転車通行空間の整備方法、ネットワーク計画等を示した「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の発出や、自転車専用道路、自転車専用通行帯の整備といった14項目の施策を重点的に検討・実施することを基本方針とした「自転車活用推進法」が2017年に制定された。2018年6月には、①自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成、②サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現、③サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現、④自転車事故のない安全で安針な社会の実現を目標とした「自転車活用推進計画」が閣議決定された。

以上のことから、未来の世代によりよい社会を継承するためにも、持続可能な社会システムの構築に資する地域の悠久の歴史と薫り高い文化を引き継ぐとともに、隠れた魅力を掘り起こすことが重要である。また、過度に

\* 原稿受付 2022年4月28日

\*<sup>1</sup> 工学部 建築土木工学科

E-mail: yoshimura@fukui-ut.ac.jp

自動車に依存した交通環境から脱却し、均衡のとれた交通環境の創出、とりわけ“自転車が利用しやすいまち”を実現することで、“誰もが暮らしやすいと思えるまち”の形成につながると期待している。

本稿では、鯖江商工会議所建設業部会と福井工業大学工学部建築土木工学科吉村研究室（FUT 交通まちづくり研究室）が協働で、『自転車を活用したまちづくり』を通して「環境」に優しく、「健康」、「生きがい」、「友情」を与えてくれるという“自転車新文化”を広げていきたいという考えのもと、2017年度から取り組みを展開してきている協働プロジェクトである「さばポタ de さばレポ」について、2021年度に実施した内容を報告する。

## 2. 自転車を活用したまちづくりの構築に向けたこれまでの取り組み

現在、鯖江市では自転車通行空間が整備されているが部分的な整備に留まっており、通勤や通学、買い物等の日常生活で自転車を利用する際に歩行者や自動車との錯綜が生じていることから、安心して利用できる状況ではない。また、北陸新幹線駅が越前市に新設されるため、鯖江市にとっても誘客拡大の好機になることから、効果を高めるためには滞在時間の拡大を図る回遊性の向上ならびに周遊観光の促進が有効であると考えられる。このため、自動車に比べて速度が遅く、徒歩に比べ行動範囲が拡大する自転車の役割は大きい。

建設業部会では2015年度より鯖江市内の自転車ネットワーク計画の策定や自転車通行空間の整備手法を検討するといった観点から、自転車通行空間整備に関する調査や先進事例地域への視察を行ってきた。2017年度からは、鯖江市での「自転車を活用したまちづくり」の機運を醸成することを目的に建設業部会と吉村研究室が協働で取り組んできている。これまでに実施してきた内容は、下記の通りである。

### 【2017年度】

- ① 自転車の利活用推進に関するセミナーの実施による理解促進
- ② 鯖江市への提案（鯖江みんなのまちなか自転車活用道路の提案書を作成）

### 【2018年度】

- ① 鯖江市における自転車利用環境の創出に向けたセミナーの実施による理解促進と機運醸成
- ② まちなかと里山をつなぐサイクリングルート提案に向けたフィールドワークの実施
- ③ まちなかと里山をつなぐ自転車利用環境向上に関するアンケート調査の実施
- ④ まちなかと里山をつなぐ自転車利用環境の創出に向けたワークショップの開催によるステークホルダーならびに住民への機運醸成
- ⑤ まちなかと里山をつなぐサイクリングルートの提案

### 【2019年度】

- ① さばポタ de さばレポ～まちなかと里山をつなぐサイクルピクニック～の企画・開催
- ② 鯖江市への提案（自転車利用環境の向上を目指した調査報告・提案書を作成<sup>(4),(6)</sup>）

### 【2021年度】

- ① さばポタ de さばレポ～まちなかをつなぐサイクルピクニック～の企画・開催
- ② 鯖江市への提案（「自転車を活用したまちづくり」から鯖江の未来を紡ぐ提案書を作成）

## 3. 2021年度「さばポタ de さばレポ」の開催報告

### 3.1 開催概要

「さばポタ de さばレポ」は、2019年に鯖江商工会議所建設業部会と協働で初めて開催した。「さばポタ de さばレポ」とは、鯖江市内を自転車でのんびり散走（ポタリング）しながら、鯖江市公式・市民協働型アプリの「さばれぽ」を活用し、自転車だからこそ気づく道路環境の現状や穴場スポットを位置情報と写真とともにレポートしていこうという市民参加型のポタリング企画である。2021年11月に新型コロナ感染症拡大防止対策を講じて2年ぶりに開催した。

開催日時は、2021年11月3日（日）8時30分から13時30分であり、ルートはFig.1に示すように、西山公園噴水前を出発し、忠霊塔（平和祈念館）、西光寺、吉江七曲り通り、大谷公園、近松の里・春慶寺・榎お清

水、旧瓜生家住宅の順にポタリングし、最終目的地を三六温泉神明苑と設定した。総距離 12.7 km, 最高勾配 7.1%, 最小勾配 - 5.9%である。当日は約 30 名が参加した。

### 3.2 さばポタ de さばレポへの参加動機について

参加動機について、Fig. 2 に示す。「自転車が走りやすい街になってほしいから」、「鯖江市内を自転車で走って見たかったから」という理由での参加が 56.3%と最も高い。次に、「サイクルピクニックが楽しそうだったから」が 37.5%、「友人・家族が参加するから」が 25.0%と続いている。以上から、本プロジェクトでの企画は鯖江市内での自転車利用のきっかけや、自転車を活用したまちづくりを考える機会を創出できているのではないかと考えられる。



Fig.1 設定したルートとルートの勾配

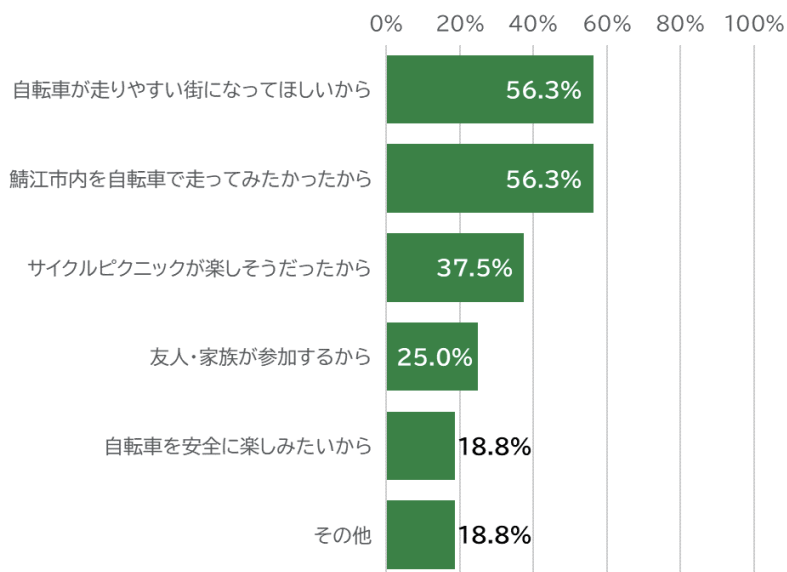


Fig.2 参加動機

### 3.3 自転車を活用したまちづくりへの関心について

さばポタ de さばレポへの参加を通して、自転車を活用したまちづくりへの関心が高まったか否かについて Fig. 3 に示す。図をみると、「大変高まった」の割合が 43.8%、「やや高まった」が 12.5%、「高まった」が 43.8%と、全ての参加者がさばポタ de さばレポへの参加を通して、自転車を活用したまちづくりへの関心が高まったとしている。これは、自転車を活用したまちづくりへの関心を高める手段として非常に意義のある企画であるといえる。

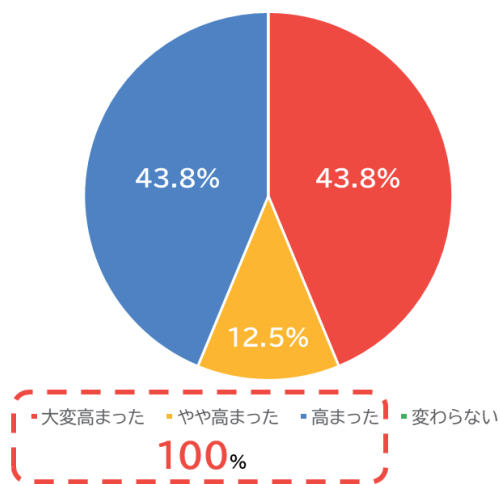


Fig. 3 自転車を活用したまちづくりへの関心

### 3.4 走行ルートの道路環境に関する評価

自転車を利用する視点からみた鯖江市内の道路環境の評価について Fig. 4 に示す。「やや不満」が 68.8%と最も高く、「不満」の 6.3%と合わせると 75.1%が鯖江市内の道路環境に不満を抱いている傾向にあることが分かった。理由として、「まだ自動車優先の道路仕様になっており、段差が多い。」、「路面のひび割れや凹凸によって走りづらい。」、「標示等のサインが分かりにくい。」といった意見が挙げられた。一方、25%は満足に感じている傾向にあり、市内の自転車通行空間の整備が徐々にではあるが図られてきているといった意見もあった。



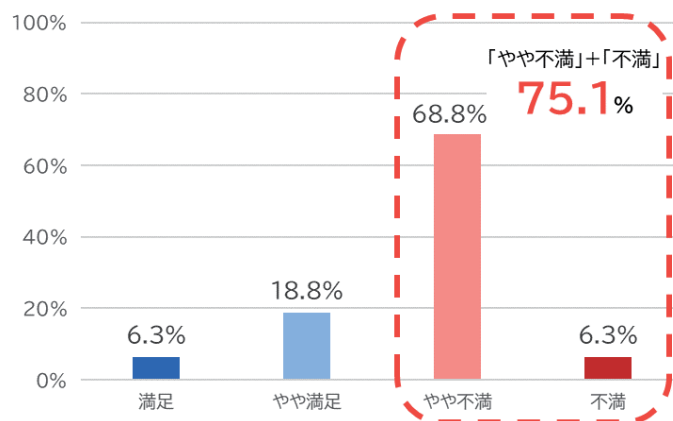


Fig. 4 自転車利用の視点からみた鯖江市内の道路環境評価

### 3.5 鯖江市での自転車を活用したまちづくりに向けた今後の重要施策

鯖江市で自転車を活用したまちづくりに向けて重要であると参加者が考える施策を Fig.5 に示す。図をみると、自転車のみが走行する自転車通行帯の整備といった自転車通行空間の整備が 75.0%と最も高いことが分かる。レンタサイクルやシェアサイクルの普及ならびに利便性の向上が 50.0%，コースの案内や休憩施設といった自転車を利用する旅行者の受け入れ体制の充実が 31.3%と続いている。さらに、幅広い年齢層が参加できるサイクルイベントの開催および、自転車と他の交通機関との連携強化が 25.0%であった。これらの結果は一部の参加者の意見ではあるものの、鯖江市商工会議所建設業部会が行う鯖江市長への提言の機会の際の一助としたい。

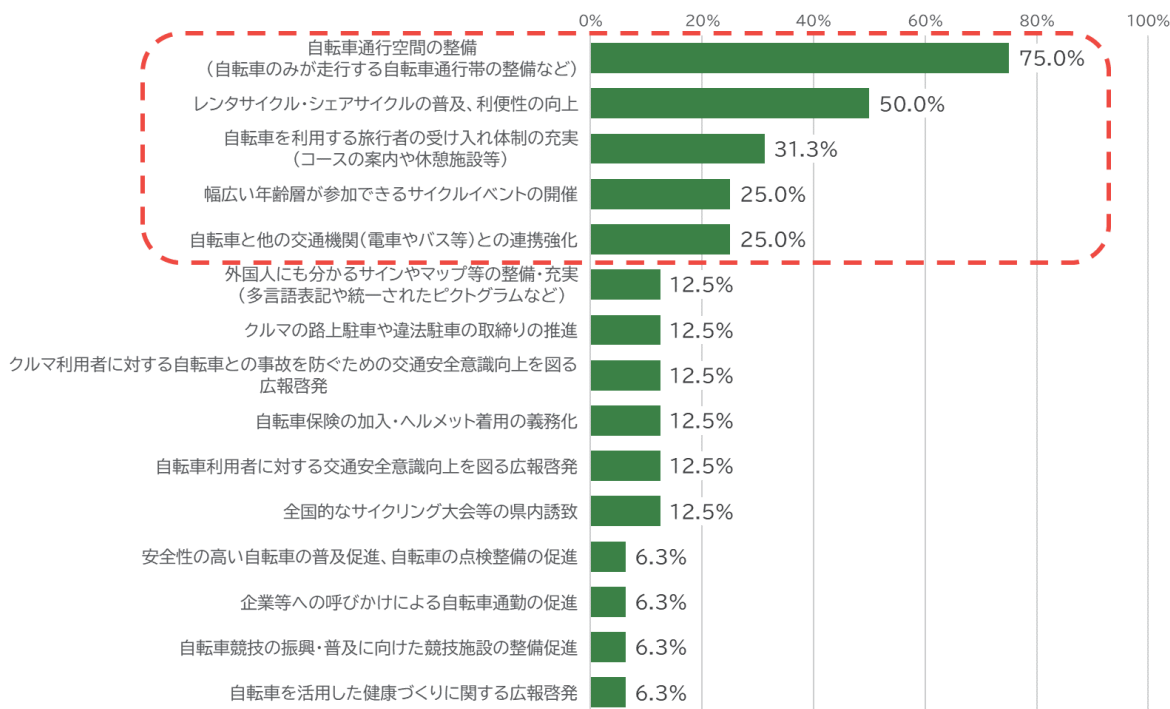


Fig. 5 自転車を活用したまちづくりに向けた重要施策

## 4. 「さばポタ de さばレポ」に期待できる効果

2017年度から自転車を活用したまちづくりに関するセミナーやワークショップを行い、機運の醸成等を図ってきた。2019年度には「さばポタ de さばレポ」を開始し、新型コロナウイルス感染症の影響もあり 2021

年度に第2回目を実施してきている。「さばポタ de さばレポ」の内容ならびに、「さばポタ de さばレポ」の開催等を通して実現したいこと、実現によって期待できる効果について Fig.6 に整理した。



Fig.6 「さばポタ de さばレポ」に期待できる効果

## 5. おわりに

自転車での移動は、①徒歩より行動範囲が広く、自動車よりも速度が遅いため、訪れた地域や住んでいる地域を楽しむことができる、②自動車や公共交通だけでは見落としがちな地域の商店や地域資源をみつけることができ気軽に立ち寄ることができる、③運動習慣のない人でも「長時間」動き続けることができ身体へのダメージが小さいなどのメリットが挙げられる。したがって、自転車は天候に左右される移動手段であるものの、誰もが簡単に利用することができ、継続可能な運動としても期待できる。また、自転車観光は地域へのファンを獲得できる可能性も十分にあると考えられる。

「さばポタ de さばレポ」は、普段自動車による移動が多い福井県で自転車を利用するきっかけを創出しており、さらには自転車を活用したまちづくりへの関心を高める手段として有効であると考えている。今後も鯖江商工会議所建設業部会と協働で継続して展開していき、住民の方々との議論のなかで、様々な意見を引き出しながら合意形成を図っていくことが重要である。これらの機会を通して、地域の自転車利用環境の向上を図るための整備の推進や、地域の担い手が増えていくことにつながっていくことを期待する。

引き続き、関係機関との協働体制を構築し、今後も議論等を進め、サイクリストに優しいまちを目指した取り組みを協働で実施していくことで、早期の自転車利用環境の向上につなげていきたい。

## 謝 辞

本プロジェクトは、鯖江商工会議所建設業部会との協働で実施いたしました。プロジェクトを遂行するにあたり、鯖江商工会議所事務局および福井工業大学の事務局等、多くの関係機関よりご支援・ご協力いただきました。ここに記して謝意を表します。

## 参考文献

- (1) SDGs推進本部, “SDGsアクションプラン 2018～2019年における日本の「SDGsモデル」の発信を目指して～”, 2018.
- (2) 国土交通省観光庁, “テーマ別における地方誘客事業”, <http://www.mlit.go.jp/common/001219169.pdf>, 2022年4月21日（最終閲覧）
- (3) 国土交通省国土政策局, “国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～”, 2014.
- (4) 福井工業大学工学部建築土木工学科 交通計画研究室（研究代表者：吉村朋矩）, “里山エリアとまちなかをつなぐ自転車利用環境の向上を目指した調査～鯖江市における自転車まちづくりの可能性～”, 鯖江商工会議所建設業部会との協働調査報告・提案書, 2019.
- (5) 吉村朋矩, “鯖江市における自転車利用環境の向上を目指した取り組み（鯖江商工会議所建設業部会との協働事例）”, 福井工業大学研究紀要, Vol.50, pp. 310-316, 2020.

（2022年8月4日受理）